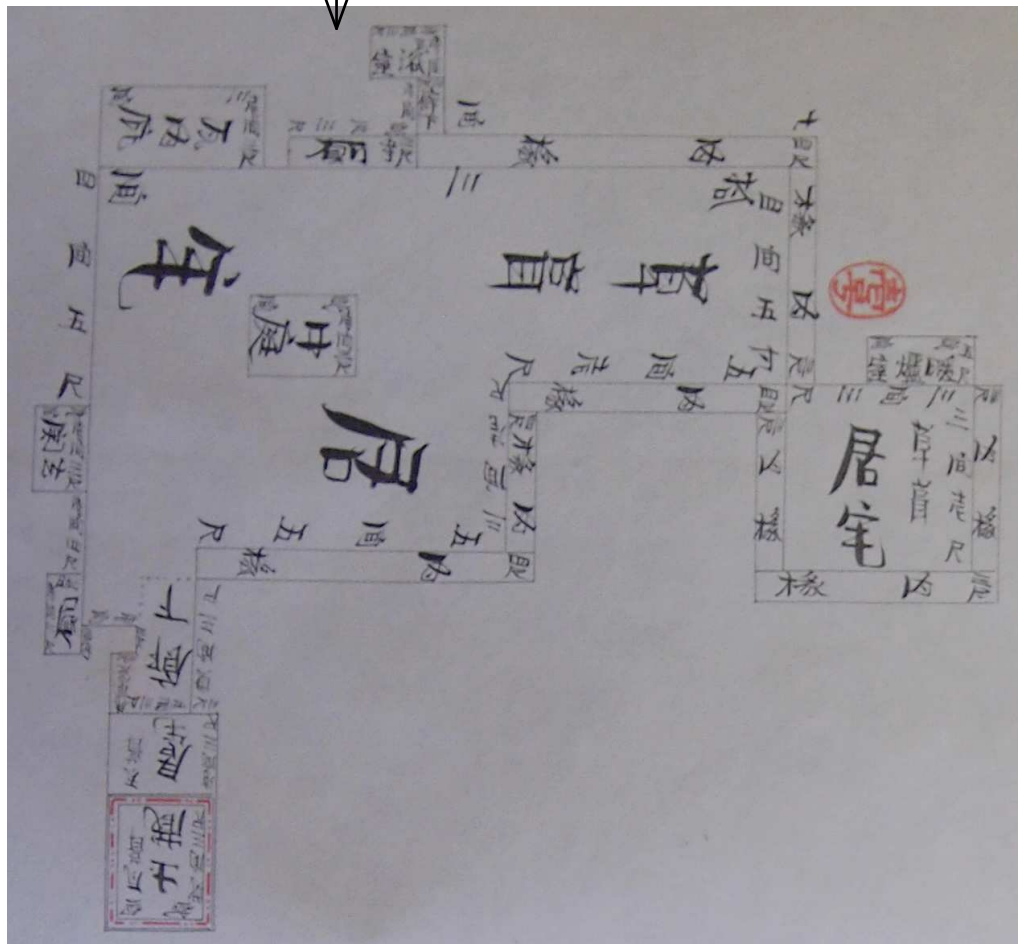
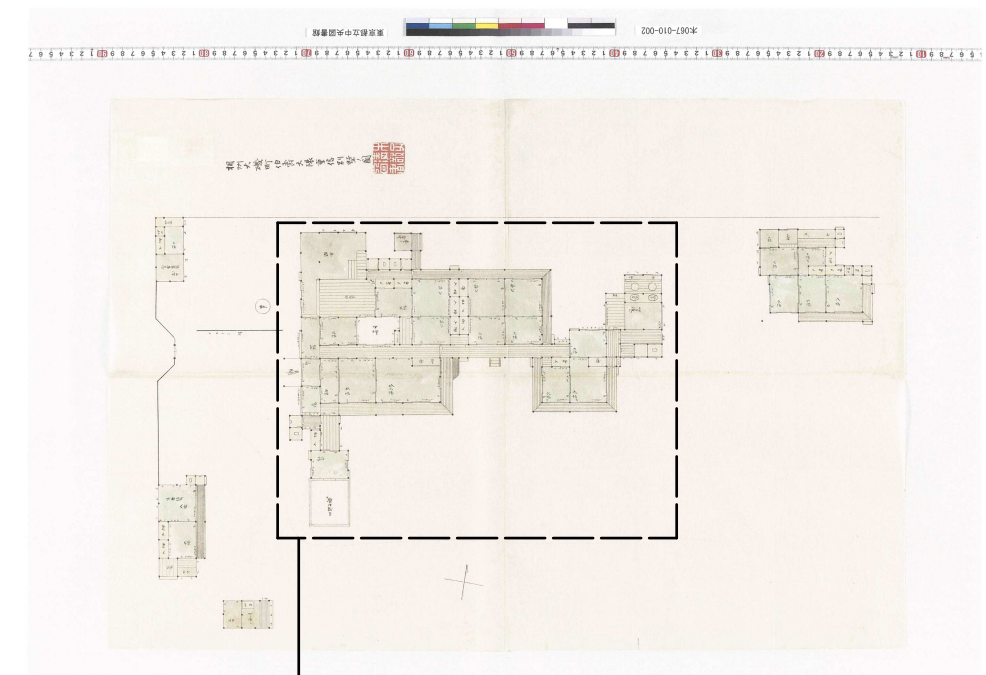


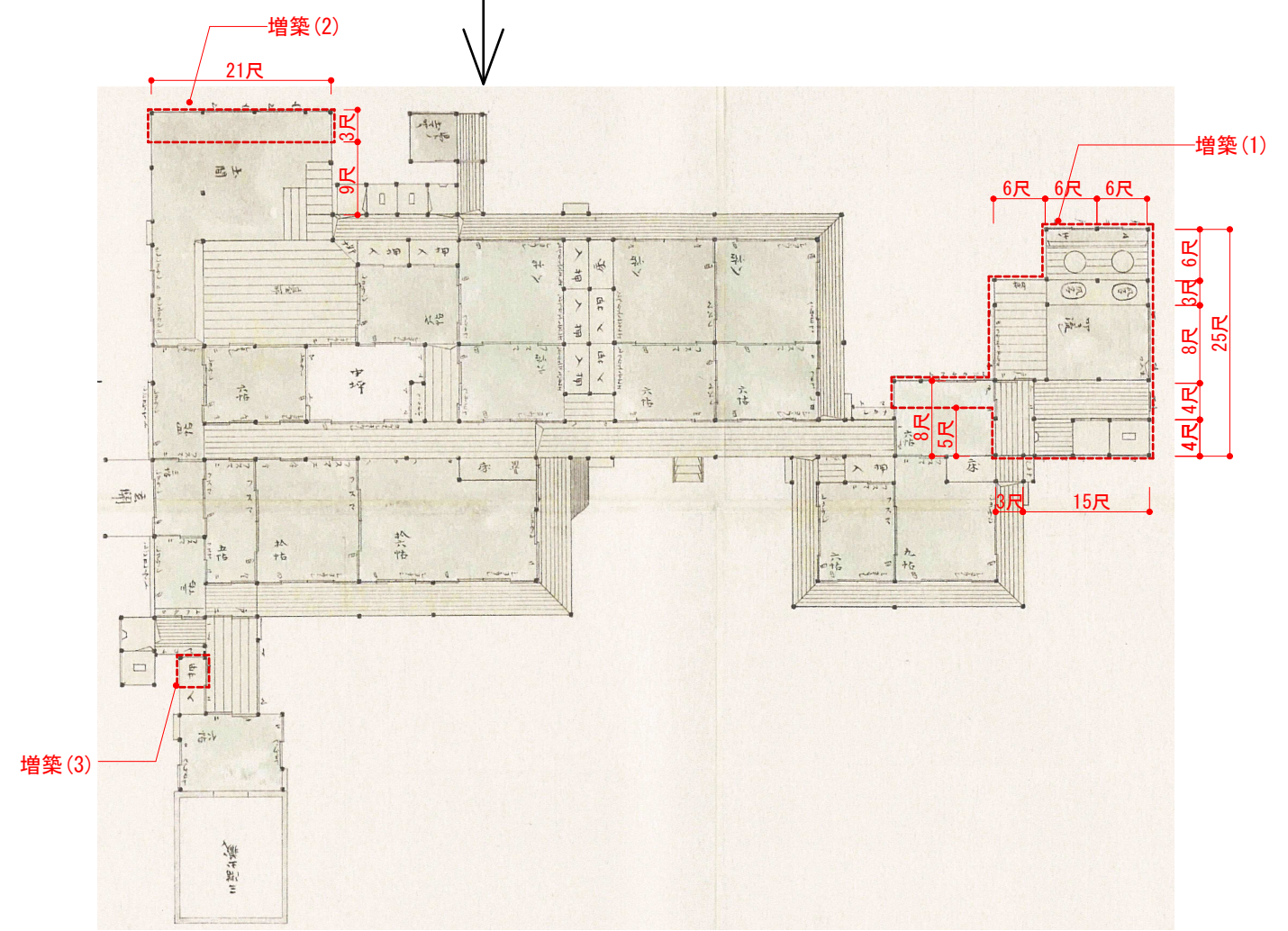
A 家屋台帳掲載「家屋位置及方位」図（変遷表では家屋図と記載）
作図年：明治30年代初頭と推定
[大磯町所蔵で家屋台帳と称される旧大磯町行政資料]



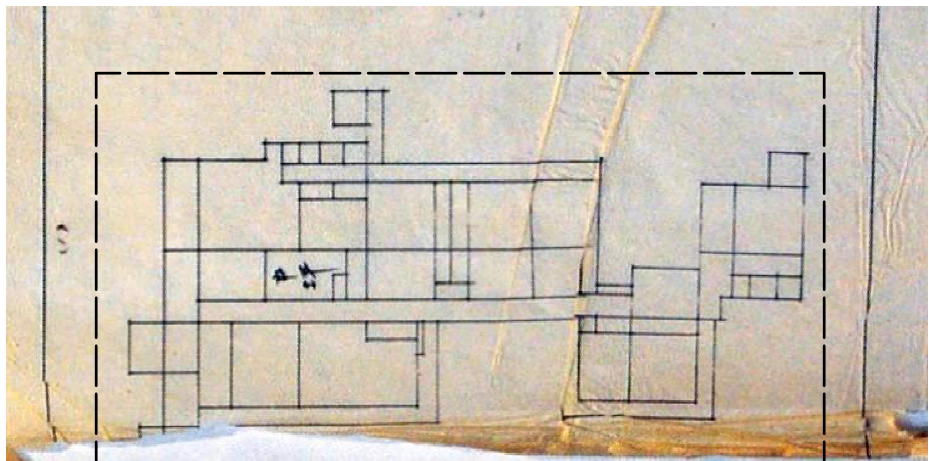
家屋図Aの主屋範囲拡大、北を上にして掲載
(赤：追記)



B「相州大磯町伯爵大隈重信別墅ノ図」（変遷表では木子文庫図と記載）
作図年：明治30(1897)年から同34(1901)年と推定
[東京都立中央図書館木子文庫所蔵]



木子文庫図Bの主屋範囲拡大、北を上にして掲載
(赤：追記、寸法は図面分析による推定寸法)



D 古河虎之助改築届間取概略図（変遷表では改築図と記載）
届出年：昭和5年5月2日
〔大磯町所蔵で昭和5年4月1日付届出から
同6年3月31日届出までを綴る旧大磯町行政資料〕

改修or改築不明
旧範囲を残し内部改修のみか、
旧範囲を撤去し、建て直しか、
この図面では判断できない
※痕跡調査では、旧範囲を撤去して、
新しい材で建て直していることが
判明している。建て直し時期は、
震災後から昭和34年の間と推定される。

減築(3)

減築(1)

減築(2)

図面は欠けているが、
昭和21年航空写真より
土蔵は存在していると判断

改築不明
痕跡調査より、一旦解体している可能性が高く、
旧材を一部再利用し、ほぼ同規模で建て直している
と推定される。建て直し時期は、
震災後から昭和34年の間と推定される。
この時期に実施された工事が、
この図面では判断できない

改築図Dの主屋範囲拡大、北を上にして掲載
(赤：追記)



内縁一体の茅葺屋根である
可能性が高い

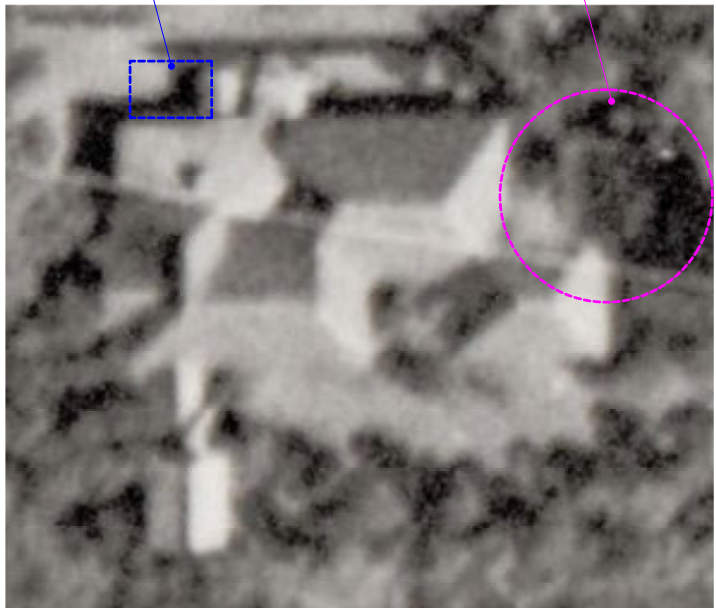
C 縁の建具形状より神代の間の棟を南西より撮影した写真と推定
(後列右古河虎之助夫妻、前列左から二人目従純)
〔古河従純君伝(1971)古河従純君伝記編集〕
⇒従純を5才程度と想定した場合、撮影時期は明治42年前後

減築(3)

航空写真からでは、
改造状況不明

減築(3)

航空写真からでは、
改造状況不明



E 航空写真 昭和21(1946)年
〔国土地理院〕



F 航空写真 昭和27(1952)年
〔国土地理院〕

